

- 2004年10月記録会は10月17日(日)大宮田んぼ(9:00~12:00)
- 2004年11月記録会は11月14日(日)大宮田んぼ(9:00~12:00)です!

本格的な模型飛行機シーズンが始まって、FFの繁華街・大宮田んぼは賑やかです。最近では土日と言わずウイークデーも飛行機屋がウロウロしています。但し、これら人々の半分は、田んぼでの宴会かミーティング専門です。全国でも模型飛行機競技会シーズンたけなわで、賞品稼ぎや参加するだけの人も含めて、ナイフならぬ飛行機を日々研いでいます。

様々な活動をするには、今後はインターネットの利用なしに存続、発展は考えられません。ところで、インターネット上で「模型飛行機」で検索すると、「紙」か「ラジコン」が90件近く引っかかるのに「ランチャーズ」がほとんど出ません。「フリーフライト」で検索するとランチャーズばかり出て、その他の情報が少ない。今後FF屋が世間に知られるには言葉としては「模型飛行機」を多用する必要があるようです。特に「FF」は死せる「専門用語」のようです。我々・FF屋・は用語について深く反省しなければいけません。反省、黙祷・・・・・・・・。

「滅び去りし者」になる前にFF屋→模型飛行機屋は、いよいよ奮起して初歩の「ライトプレーン」等に注力して、ピチピチの若手を網に取り込みましょう。我々こそ真に「ライトプレーン」の作り方を伝えられる唯一の生き残りなのであります。カーボン翼を作る暇があるなら、新進の「模型飛行機屋」を1人でも2人でも捕まえて来ましょう。

記録会報告	①2004年8月記録会/HLG	②2004年8月記録会/PLG、
	③2004年9月記録会/HLG	④2004年9月記録会/PLG
お知らせ	⑤日本選手権案内	⑥国際級ジュニア競技会案内
FFサロン	⑦UHLG・吉敷機の紹介	⑧HLGこととはじめ 余話
雑談天国	⑨介護と滞空性能について	
編集後記	⑩元会員の消息等	

2004年8月記録会の結果(HLG/CLG)・ちびた号大会

★ 8月HLG記録会報告

1. 相沢、2. 平尾・・・・・・・・①

今年の異常気象を象徴するように三回の開催延期、待った?甲斐あって良いコンディションで開催できました。田中杯(HLGのみ)は只一人5MAXを出した井村さんのものとなりました。前シーズンの後半は不調であった井村さんが復調したようです。

今年もCHIBITA-GOを育てたグリーンパーク(武蔵野中央公園)で無事開催できました。CHIBITA-GO生みの親である田中晋さんから今年も副賞のご寄付を賜りました。ありがとうございます。また多くの参加者があり、とてもありがたいことと感謝いたしております。来年夏もまたCHIBITA-GOを持って会いましょう(相沢)。

競技会開始の9時頃は参加者が少ないな一と思っていたのですが、終わってみると18名と立派なもの。ランチャーズの、この大会を楽しみにしてくれている人が、けっこういるようで感謝しています。今後とも頑張ります。

さて、記録の方は、出だしMAXが順調に出てフライオフか思っていたが、10時前後はサーマルハントが難しく、結果はオールマックスは1人のみでした。取得高度はA、Bクラスに別れて、Aクラスは4人程度、Bクラスが10人といった所でしょうか。その他は戦力外……。上位を占めている選手の多くが地元選手です。グリーンパークにはお年の割に高度を取るランチャーが結構居ます。ぜひ、大宮にも来て欲しい選手です。

ちびた号は公園用として、大きさ、飛行性能とも巧くできています。小型だし、余り飛ばないで降りてくるので、狭い広場では誠に使いやすい。製作も瞬間接着剤だけでも十分な強度が出るので作りやすい。又、このままでパチンコとしても使えるところが素晴らしい。

雑感 この日、同時にあった紙飛行機競技会(輪ゴムで飛ばすクラス)は超小型で発航後見つけるのが大変。輪ゴムにしてはよく上がります。その他では、羽ばたき機、小型スケール機、又、超小型ゴム動力機等飛びかって、さすがにグリーンパークはフリーフライのメッカです。

又、この広場は木陰が多いので、子供中心の活動も盛ん。食事、様々な遊び、日向ぼっこ等で100人ぐらいの親子が集まっているのは壮観です。都市公園としての大成功例でしょう。トイレも完備しているし、近所にはデイリーストアもあるので、ファミリーは便利です。

私は今後、千葉で頑張るつもりですが、やはり東京と違って人が集まらない。当然、模型飛行機も知られていなくて、ほとんどいません。のぼり旗でも作って宣伝に努めようと思っています。

HLG記録 9月12日 グリーンパーク 晴れ、30°C、1~2m/S、40秒MAX

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F1	総計
1	井村	40	33	31	19	40	40	24	35	40	40	200		200
2	今関	38	35	18	27	40	37	21	39	40	21	194		194
3	星野	40	31	35	15	26	40	33	40	37	30	192		192
3	菅野	26	31	36	40	40	40	32	32	36	25	192		192
5	川口	26	22	22	15	23	40	40	38	31	40	189		189
6	横関	20	23	40	19	40	25	23	40	21	40	185		185
7	小川	25	40	26	20	21	40	40				171		171
8	相澤	14	21	24	29	28	40	28	20	23	40	165		165
9	宮辺	15	27	37	27	40	27	26	17	15	31	162		162
10	吉田	34	19	25	5	8	8	28	35	26	36	159		159
11	平林	40	14	40	20	17	12	12	4	37	5	154		154
12	大八木	23	28	36	30	36	17	2	2	17	9	153		153
13	寺田	23	26	27	7	30	32	19	19	34	19	149		149
14	三俣	4	26	25	4	13	24	17	22	30	24	129		129
15	戸谷	15	22	16	19	17	30	16	23	14	33	127		127
16	平尾	28	20	15	14	12	25	19	7	8	9	107		107
17	平林	13	22	19	7	17	7	21	18	18	2	98		98
18	尾沢	4										4		4

★ 8月PLG記録会報告

佐藤・・・②

8月に予定されていたチビタ号大会が雨で延期になり、今月(9/12)の開催になった。晴天に恵まれ、参加者も地元メンバーの参加があり15名と大盛会でした。記録は久しぶりにベテラン岡田さんが5マックス(200+17)で優勝。2位は5マックスでしたがフライオフリタイヤの河田さん。3位は197秒の同タイムで三辺さんと川口さんでした。四位も同タイムで戸谷さんと川口さんでした。以下省略 追記:チビタ号(CLG)も年々盛況になってきました。地元(紙飛行機メンバー)のみなさんの今後の協力に期待いたします(佐藤)。

ちびた号そのままをパチンコで飛ばすので、手投げとの高度差がよく解ります。パチンコは1.5gのゴムで井村機より、はるかに上がっています。5秒程度は有利のようです。こちら参加者が多く大盛会でしたが、発航の技術に差があつて巧い下手で高度差があります。ここと大宮とでは気流の安定性に差があるので、オールマックスはなかなか難しい。

PLG8月記録 9月12日 グリーンパーク 晴れ、30°C、1~2m/S、40秒MAX

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F3	総計
1	岡田	27	23	31	40	40	40	32	40	40		200	17	217
2	河田	40	40	28	36	40	40	28	40			200	-	200
3	佐藤	40	20	4	24	37	40	15	15	40	40	197		197
3	三辺	22	18	40	40	40	37	29	31	36	40	197		197
5	戸谷	40	29	40	40	33	18	29	25	37	23	190		190
5	川口	28	40	26	40	21	40	25	23	30	40	190		190
7	大嶋	24	36	39	36	27	34	40	23	29	15	185		185
8	長嶋	40	30	40	40	28	31	28	26	29		181		181
9	乙川	26	29	27	40	25	22	40	37	28	27	174		174
10	内山	22	40	7	26	31	18	36	22	40	24	173		173
11	板倉	40	23	10	22	23	24	17	34	29	38	165		165

12	田中	22	18	30	40	21	28	30	27	33	17	161		161
13	尾沢	14	25	29	18	40	30	24	17	23	5	148		148
14	桑原	25	20	24	25	20	40					134		134
15	中山	8	40	40								88		88

◆2004年9月記録会の結果(HLG/CLG)

★9月PLG記録会報告

佐藤・・・④

今朝は家を出る時に強風だったため天気が心配でしたがタンボに来てからは風も静かになり快晴の良いコンディションになりました。優勝は久し振りに最長老の内山さん(79歳)4MAX+57秒でした。2位は常勝の河田さん(282秒)でした。3位はHLGと掛持ち参加の河口さん(266秒)。4位は練習熱心な乙川さん(259秒)。以下省略。CLGはコンディションのよい割には5MAXが出ませんでした(佐藤)。

石井英夫選手も来られてましたが、熱があるとかで競技には参加せず、計時をしてくださいました。PLGも北海道である紙飛行機の大会の影響か、参加者は意外に少なく9名でした。パチンコの機体の大きさでは、この日の気流は難しかったようです。このあたり、HLGとPLGでは基本的な空力性能の差が厳然とあるのでしょうか。記録を見ると、大宮田んぼ初参加の選手も何人か居たようです。次回もぜひ参加してください。広いという事は素晴らしい事です。

PLG9月記録 9月19日晴れ、30°C、南西の風1~4m/S、60秒MAX

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F1	総計
1	内山	27	26	47	60	60	60	40	60	32	53	293		293
2	河田	60	40	36	42	30	60	38	27	60	60	282		282
3	川口	9	60	60	35	35	44	45	57			266		266
4	乙川	52	36	13	60	60	25	51	25	17	11	259		259
5	倉田	30	31	28	42	33	60	27	28	55	51	241		241
6	石引	24	28	25	50	31	31	38	60	58	27	237		237
7	佐藤	60	25	30	7	22	42	47	17	27	16	206		206
8	戸谷	18	20	34	18	38	22	36	30	27	30	168		168
9	大久保	35	21	22	60							138		138

★9月HLG記録会報告

1. 相沢、2. 平尾・・・③

大宮に戻ってきました。大方の予想を裏切ってとてもよいコンディションでした。シーズン当初から3名でフライオフとなり盛り上がりました。オーバハンドの強豪が紙飛行機の大会で留守にしたせいか3名ともUHLGでの争いです。

- ・UHLG育ての親、吉敷さん。・平尾さん絶賛のUHLGを引っさげての春山さん
- ・「朱鷺」色に仕上げたUHLGを持って新潟から駆けつけた細海さん。

やや雲が多くなって来て、10分間に2投MAX90秒のフライオフ。サーマルは開始直後の1回切りだったのか、開始直後に飛ばした1投が勝敗を分けました。開始時刻をしきりに気にしていた吉敷さん、このとき既にサーマルを読んでいたのかも、+83は見事でした。今シーズン、UHLGが従来のオーバハンド投げのHLGを、超えてしまったよう見受けられます。UHLGがHLGの世界を広げてくれます。あなたも、試してみたいはいかがですか?(コメント:相澤)

この日は紙飛行機の大きな大会が北海道であるので、吉田、石山選手等が不参加でしたが、けっこう盛り上がりました。コンディションは良さそうでしたが、実際に飛ばしてみると甘くない。記録会前半はマックスの数が少なく確率23%、後半で30%でした。但し、後半はオールマックスになった人は飛ばしていないので、実際には確率はもっと上がるはずです。

吉敷選手は前半からマックスが出ていますが、これはスタートが遅かったから・・・。春山、細海両選手を見ていると、けっこう苦戦して最終回ギリギリでのオールマックスでした。前半連続3maxの三田選手はその後マックスが全く出ず不思議な脱落、練習不足かな・・・。斉藤選手はこのところ好調を維持、次回あたり優勝か? 超ロングスパンUHLGを持ち込んで攻めた(何を・・・)石井満選手、翼弦7cm、スパン90cm、推定アスペクトレシオ18の軽い機体を、翼端より内側のヒンジを掴んでの投げはなかなか見事でした。声の良い池田選手は野球投げで頑張ったが利あらず。宮辺、三田選手とも270秒を出しながら

ら10位前後とはきびしい・・・。全体を見ると80%の選手が200秒以上ですから、いかに大宮田んぼが良い条件なのかが解ります。計算してみると、この競技会の15人の平均滞空時間は247秒にもなります。性能の向上もありますが、やはり大宮田んぼの環境の良さが出ているのでしょう。

次回は勝手に「小西氏追悼記念記録会」です。小西さんは関西の紙飛行機から、HLGにはまり込み、F1Aで何度も日本選手権に来ていました。今年6月突然亡くなられました。黙祷。

HLG 9月記録 9月19日 大宮田んぼ 晴れ、30°、南西の風1~4m/S、60秒MAX

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F1		総計	
1	吉 敷	60	48	60	60	46	60	60				300	83		383	U
2	春 山	60	45	44	48	60	60	42	60	60	60	300	73	51	373	U
3	細 海	51	60	33	36	33	60	56	60	60	60	300	36	26	336	U
4	斎 藤	52	28	27	44	31	60	60	53	35	60	285			285	U
5	石 井満	39	60	29	60	38	8	20	23	60	60	279			279	U
5	池 田	28	55	41	40	60	60	39	44	41	60	279			279	
7	平 尾	51	38	47	45	60	60	24	37	43	60	278			278	U
8	宮 辺	15	48	60	51	56	50	27	27	60	27	277			277	
9	三 田	48	60	60	60	34	36	45	25	40	30	273			273	
10	川 口	26	60	42	24	30	23	60	28	40	41	243			243	
11	小 林	40	18	25	60	39	33	60	24	32	2	232			232	U
12	小 川	29	27	29	50	28	38	52	41	17	5	210			210	
13	相 澤	47	34	36	34	35	18	38	26	25	13	190			190	
14	三 俣	21	23	15	16	10	39	7	20	30	19	133			133	
15	戸 谷	20	27	17	19	13	12	23	26	21	23	120			120	U

UはUHLGを示す

● 2004年・フリーフライト 模型飛行機日本選手権競技会案内

⑤

- 主 催 日本模型航空連盟
 公 認 日本航空協会
 開催期日 平成16年10月29日(金)、30日(土)、31日(日)
 開催場所 千葉県香取郡干潟町万歳(JR線あさひ駅の4Km北の田んぼ)
 種 目 フリーフライト F1A、F1B、F1C
 規 定 FAI スポーツ規定に準拠
 参加資格 日本国籍を有する期間有効な模型飛行士登録者、及び日本航空協会のスポーツライセンスを有する外国人
 申込方法 所定の参加申込書により、期日までに参加費を振込む
 締切期日 平成16年9月11日(土)当日の消印有効
 参加費 20,000円(1種目)(2泊)第1日、第2日の夕食及び宿泊費を含む
 その他 詳細は各クラブ、又は日本模型航空連盟にお問合わせください。

● 2004年・フリーフライト 模型飛行機国際級(F1G、H、J)・(HLG) 競技会案内

⑥

- 主 催 日本模型航空連盟
 開催期日 平成16年11月21日(日)、雨天の場合28日
 開催場所 埼玉県さいたま市大宮田んぼ
 種 目 フリーフライト F1G、F1H、F1J、及びHLG
 規 定 FAI スポーツ規定に準拠
 参加資格 当日有効な模型飛行士登録者、
 申込方法 所定の参加申込書により、期日までに参加費を振込む
 締切期日 平成16年11月10日(木)当日の消印有効
 参加費 3,000円(1種目)
 その他 詳細は各クラブ、又は日本模型航空連盟にお問合わせください。

■ 吉敷機の紹介・【設計上61秒飛ぶUHLG】

平尾・・・⑦

春山機に続いて吉敷機を紹介する。石井満氏公表のHLG関係グラフはなかなか巧く出来ている。様々な機体の諸原を入れて計算してみても、これまで滞空性能が60秒を超した例はない。重いと上昇は良いが滑空が悪いし、軽いと滑空がよい上昇が悪い。吉敷機はそのバランスが良く、グラフ上で60秒が出る希有な機体である。UHLGとしては早期に完成していたと思うのだが、彼が資料を出借しみた結果、2番目の紹介となった。吉敷氏は頑固に後退翼機を作り続けているが、それをそのままUHLGに取り込んできて今回の優勝で完成した言えようか。

1. 吉敷機・70の諸原 (勝手に展開スパン70cmをサイズ・70としている)

スパン694mm、展開スパン750mm、翼弦88~10mm、翼厚6.7%、アスペクトレシオ8.6
 主翼面積 5.3 dm^2 翼面荷重 9.6 g/dm^2 、重心位置55.7%、上反角値13.0%胴長677mm、機体重量51.0g 滞空性能61.4秒(高度26m/沈下率0.445+上昇時間3秒)、
 主翼・バルサ削り出し、前縁檜(3×5)補強、前縁削ぎ上げ2mm、4段上反、前後縁共、翼端近づくと急激な曲線絞り、ハイポイントは翼端行くほどやや後退する。胴体・前部・後部共カーボンパイプ5.5~4.5mm、デサマワーク・線香・保持部分、及びゴムかけピンはピアノ線曲げ加工。

翼端投げ(右利き)、右旋回滑空ースタブティルトによる(ラダーは中立)、V尾翼は取付角差135度(前方から見ると極端なスタブティルト付き)

2. 機体の特色他

春山機と後前になってしまったので、二番煎じに見えるが吉敷機の考え方が相当春山機に影響を与えていて、文々が似てしまうのはお許し願いたい。

① 形はHLGの中でも独特で「魔法使いの空飛ぶ箒」のイメージがある。これは極力抵抗を減らそうと言うデザインで、それなりに細部にわたって合理的な処理がしてある。胴体はカーボンパイプのみで出来ていて、翼台もほぼ無い設計で実用に徹した機体である。飛行機としてのバランスを崩した極端に小さい水平垂直尾翼等は、「美しさ」を捨てて合理性に徹している。例えば、車で言えば「シトロエン2CV」的(違うという意見がドット聞こえそうだが・・・)、これが駄目というのであれば「フィアット・マルチプレ」か。この車は目立つ事バツグン、中は広いしキビキビと走るし、ヘンコツが乗るのには何と言ってもこれです。但し「なに、あの変な車・・・」みんながアッと驚く事間違いなし。

注: 参考までにこの車は英国で形の悪さ世界一と決めつけられたが、乗り心地、操縦性、快適性等は最高と言われているミニバン。インターネットでご覧あれ。

② 機体としては大型に属するが、翼弦が小さい(88mm)ので小振りに見える。アスペクト比の大きい翼で、前縁の削ぎ上げ・2mm(+向角)を付けて機体の上昇調整している。主翼は中央部分が長く翼端で大きく曲がって後退しているが、これは上昇抵抗を減らす為。胴体はモーメントアームを長くして尾翼面積は極端に小さくして抵抗を減らしている。

③ 主翼断面は前縁の削ぎ上げが2mmあり、現在では普通になったが数年前見た時は驚いた(過去には前縁の削ぎ上げは1mmが限界でそれ以上付けると滑空が悪くなると考えられていた)。

吉敷機の主翼の前縁の膨らみ方は、手で触ってベストの感触で素晴らしい。小生、この感じがなかなか出ないで苦労している。滑空はこれまでの常識を打ち破って素晴らしい。

④ 翼面加重は 9.6 g/dm^2 であり、上昇と滑空のバランスを考えると、最も合理的な値である。様々な工夫がしてあり機体は見かけより丈夫である。前縁の削ぎ上げ、ハイポイントは30%と比較的後ろ、最小の尾翼面積(数字的に私の機体の半分)、下面フラットな翼断面等々、全てが最高の高度を取る為のデザインで、吉敷機が徹底して採用している設計方針である。

⑤ 吉敷機は胴体前部もパイプのママなので墜落した時の回転による振れは少ない。ヒンジ部分がパイプ直付けで、その補強が卵状に脹らんでいて、なおさら独特の形になっている。鴨の様に首が長く(147mm)、この部分の慣性が大きいのは気になる。主翼保持台はヒンジのみで極端に短い。そして主翼前部を輪ゴムで強力に巻き付ける事でブレを無くす考え方は手作り風である。春山機と違って、衝突時の振れが発生しにくい構造なので、主翼のヒンジはガチガチに丈夫に作ってある。

⑥ 上昇は)まことに安定している。発航直後浅い角度でやや左に上昇し、しだいに頭を右に振りながら緩やかに右旋回滑空に入る。取得高度は野球投げはとどきにくい程の高さである。吉敷機が最も螺旋スパイラルに入りにくい飛行をする。(吉敷機図面は別添)

■ 「HLGことはじめ」余話

大村和敏・・・・⑧

雑誌「Uコン技術」誌のHLG関連の記事を一元化する目的で、同誌の関連ページをスキャナで取り込みCDにまとめてみました。ついでに、それ以前の情報も可能なかぎり集めて、「HLG小史」的な資料をめざしました。「ことはじめ」というタイトルは倦越な気もしますが、以上のような経緯で付けた訳です。平尾さんがこれを踏まえて8月21日のJMAシンポジウムで発表をされ、配布資料の巻頭で私が日本で初めてHLG記事を発表されたことにされてしまいました。ところが、調べてみるとその前が多々あり、諸先輩がいろいろと発表されているようなのです。本当の「初めて」は、いくつかありそうなので、余話として補足訂正しておきます。

日本におけるHLGの興隆期は2回あったと思います。2回目は現在なのですが、1回目は戦後の模型航空の復興期と考えられます。戦中は模型航空が教育の場に採り上げられ、大きなスポンサーの下で追い風を受けた半面、軍事的色彩を帯びざるを得なかったという状況でした。そのため、敗戦後に誤解とはいえ法律的に禁止された時期があり、「解禁後」はアメリカ流の復興をするという道筋をたどりました。模型航空の復興期の文献を見ると、「スポーツとしての」という言葉が目立ちます。

現在ではFAIの「スポーティング・コード」に規定される活動で、まともに飛ぶ機体を飛ばせば、いやでもその事が体感できますが、当時は「スポーツとしての模型航空」ということが目新しく、一種のカルチャーショックであったようなのです。戦中の模型航空は、軍事的な色彩のある教育・訓練であり、当時の技術水準と劣悪な材料のもとではスポーツ性を体感できるほど飛ばなかったからです。邪推かもしれませんが、戦中の軍事教育的な模型航空を断ち切るために、ことさらに「スポーツ性」が強調された可能性はありそうです。「スポーツ的模型航空」を具現している機種が、操縦のできるCU(Uコン)と腕力勝負のHLGだったので、いずれもアメリカ生まれです。今考えると、この両機種が戦後復興期を象徴・代表する模型飛行機であったように思えます。

情報面の模型航空復興もアメリカ寄りだったようで、戦後の模型飛行機の雑誌記事のはしりは、アメリカの通俗科学雑誌ポピュラ・サイエンスの翻訳でした。さらに模型機に特化したものが同誌の臨時増刊で、3～4回は発行されています。

臨時増刊の著者陣は国産で、「模型航空」誌以来の先生方や、戦中派で戦後の模型航空復興をリードし、当時の模型航空連盟(MAFJ)の運営に参画したエリートたちです。1952年(昭和27年)の「ポピュラ・サイエンス臨時増刊 模型飛行機編」を見ると、前者には木村秀政先生をはじめ、浅海一男、北村小松、本庄季郎、滝川創などの方々、後者には渡辺敏久、島谷治郎、飯岡健太郎、鳴海寛治、萱場達郎、久世隆一郎などの方々の名前が、目次ページに並んでいます。

当時の筆者は中学生で、模型飛行機に興味はありましたが、実際に作ったり飛ばしたりする以前の状態でした。情報の熱心な受け手として勉強した記憶はありますが、ウエーク級を飛ばし雑誌記事を投稿するようになったのは10年近く先のことです。当然、寿限無も村田昆もまだ生まれていません。

上記の著者陣の中でも、渡辺敏久氏は亡くなるまで継続的に模型航空連盟の中枢に居られ、長期的な模型航空の仕掛け人といえる方です。上記の臨時増刊誌でも「ボールと同じコツで投げるハンド・ランチ・グライダー」という記事を掲載されており、これが日本のHLGの記事の最初のような感じです。ただし、先日のJMAシンポジウムで、戦中の「模型」誌でHLG機が採りあげられたという話を聞きました。同誌は、昭和18年1月創刊のようで、少なくとも昭和19年4月まで発行されています。「模型教育研究会」が編集し、日光書店が発行した戦中の模型教育を目的とした雑誌のようで、「模型航空」誌と同時代になります。「HLGことはじめ」に収録したように、1930年代のザイク年鑑はすでにHLGの記事を収録しています。年鑑の収録は同時期の雑誌記事などの文献の存在を示すものといえ、当時のアメリカの模型雑誌にHLGの記事が掲載されていて当然です。だから、日本のモデラーがHLGの存在を知っていて、試み、雑誌に発表することは十分に可能です。当時は、バルサ材は戦前に輸入された物の隠匿物資であり、一般に利用できるものではなかったため、このHLGの翼は桐板製であったようです。

HLG「ハンドランチ・グライダー」が、単なる「手投げ」ではないことは、現物を知っている人にとっては明白なことなのですが、FF機の滑空テストのように水平に滑空速度で「手投げ」することとの間の区別は、言葉からは読み取れません。伝統的な投げ方のHLGは、最近になって円盤投げ式が登場してから言われるようになった「野球投げ」という呼び方を、はじめから採用すべきであったとおもいます。

すでに1935年版のザイク年鑑では

The most popular method of launching is one in which the glider is thrown like a baseball. The throw, however, is made sidehand and not overhand.

と書かれていますし、渡辺敏久氏のタイトルも「ボールと同じコツで投げる・・・」です。滑空テスト式の飛ばし方をする「手投げグライダー」は、昔からありました。凧揚げ式の曳航が開発したのも、「野球投げ」と同時代ですから、それ以前は高いところから滑空テスト流に飛ばしていたわけです。だから、本来の HLG の初出を考証するためには、投げ方の確認が必要で、解説にその旨が示されているか、あるいは機体にグリップ(指掛け)などの装備や補強がなされているかということが条件だと思います。いずれにしても、以上の点を明らかにした HLG の解説は昭和27年に、あるいは昭和18~9年に行われたわけで、昭和30年ころにはかなり盛んになっていたのです。

◆ 雑談天国

平尾・・・⑨

さて、今回から新設のコラムである。

機関誌「ランチャーズ」も30年近く続けていると、マンネリになってきた。その間「FFサロン」を新設したりして「工夫」をしてきたが、事務局も中年から老年になって、しだいに世間が狭くなり人間的にも劣化が目立つ。止めさせたくても止めない等と言われない内に、代わらないといけない時期に来ていると実感する。出でよ、偏屈な好人物。投稿を待つ事せつ、テーマは自由。

◆ 介護と滞空性能について

大げさな「お題目」だが、最近の大宮事情を散見しての、又、実感してのテーマである。私事で恐縮だが、ここ3年間に父母を続けて亡くした。おおよそ3年ほど寝たきりになった父母の、介護に月1回程度帰郷して介護の補助をした。さきに父が亡くなり、そして昨年末ギリギリに母が亡くなって、遂に残るは自分の順番となった。同様にランチャーズのA氏も長期にわたって介護を続けていたご母堂を今年2月に亡くした。我々の周りを見るとこの様な実情の模型飛行機屋が散見される。これまでの経験から、現在介護、又はそれに近い親族を抱えている人の模型飛行機は、どう努力しても飛ばないと保証する。

* ここで簡単な講釈を・・・。現在日本の65才以上は人口の1/5を超して2,200万人に達し、100才以上の人は10年前は1,000人だったのに現在は16,000人いる。世界最高速の高齢化で、年寄りが年寄りを介護する「老老介護」の時代が今まさに来ている。

介護に関係する言葉として・ADL・なる専門用語がある。「日常生活能力レベル」とでも訳す言葉であるが、食事、排泄、洗面等が自分のみで出来るかどうかのランクを表す言葉である。これと同様な言葉として「残存能力」なるいやな言葉もある。こちらの方はさらに能力が低下した場合の用語である。残存能力=0は死である。これは高齢化するFF界にそのまま使える言葉でもある。模型飛行機屋としての、貴方のADLや残存能力はどうか・・・。

* 昨年来、成田周辺の飛行機がガンガン見える場所に「老人ホーム」建設することを夢見ている。対象は航空機関係者で、特に飛行機好きの老人が対象である。

敷地は広く、桜のトンネルやツツジ皐月の玄関アプローチがあって、玄関のガラス越しにローズガーデンが見え、パラソルの陰でコーヒー片手に読書にふける老人が見える。その上空をひっきりなしに飛行機が行き来している。車輪を出しての着陸姿勢は解るが音はほとんど聞こえない。

又、車で10分程の所にレストハウス付きの専用の模型飛行場があり、小型機程度はそこで飛ばせて、サークル活動も盛んである。そして可愛い女性が面倒を見てくれる等々。関係ないか。

* 母が亡くなってから3ヶ月ほど過ぎると、何故か飛行機が良く飛び始めた。ランチャーズ会報をご覧あれ。小生が2ヶ月続けて300秒を達成して、いずれもフライオフに残っている。又、まだ実績には出していないが、A氏の飛行機も飛び始めた。まず、これまでとHLGの高度が違う。高く上がるのである。誠に不思議なもので、介護が終って数ヶ月すると滞空性能が向上する兆しが顕著である。人の情というか人生の順番とでも言うべきか、果たすべき役割が終わると、心が吹っ切れて模型飛行機の滞空性能が向上する様である。そのように考えて周りを見てみると、今年「あの人は強いな」とか「今年は駄目だろうな」等々が、見えてくるような気がする。親孝行をしろ。さすれば貴方はいずれ、チャンピオンになれる。

▼ 編集後記

⑩

今回は会員又は元会員の周辺情報をインターネット上で拾ったものをいくつか・・・。

① ランチャーズ創設時の元会員・来海清君は八ヶ岳の1.5Kmを走る競技に出ているようだ。成績は良くないので、もう良い年だし、そろそろ模型飛行機に復帰する方が良いと思うが・・・。

② 創設時会員で、FIBチャンピオンだった芝地正履氏は、15年ほど前から飛行機から足を洗い木工に一路邁進。今では日本最大の木工アマチュアクラブを主催、その道の有名人です。彼は相当前から準備

をしていた様子で、早めに会社を辞めて小淵沢に工房を建て、クラフト教室や、木工工具の斡旋販売もやっています。ホームページも持っていて、いかにも芝地さんらしい活躍をしています。FFに帰ってくる気は全くなし。

③ ランチャーズ創設時の元会員・天才黒川晋君は数年前、ソニーとして携帯電話に関する発表をしていたが、その後の消息は不明である。

④ 元会員の笠間敏行氏はメディア関係の仕事で、インターネットではチョコチョコ名前が出てくる。TVコマーシャルの製作や、アニメ的アイドルの創作(絵本か?)やデザインもやっているようだ。その筋のコンペにも名前が出てくる。稼ぎまくっているのか・・・。

⑤ もう20年は来ないが山下喜十元会員は、明治学園を定年退職し武蔵野市の子供科学教室でボランティアをしている。前進翼のHLGで頑張っていたよなー。

⑥ 浅見賢二元会員(伝説のHLG・マーティニーニの設計者)は、とうの昔にHLGをやめて伝書鳩レースに出ていたが、最近はどこにも出てこない。天才の1人だけだけに惜しい。

⑦ 小原敏安元会員は、HLGやF1Aの名手だったが突然ラジコンに転向、時々大宮田んぼに顔を見せるが、もうFFには戻らないのかな・・・。

⑧ 「HLG入門」の作者・勝田太一氏は、このところ何処にも顔を出さないが、お元気かどうか。

昔、ご自分で模型飛行機の本を書くとか聞いたが、いかがなりや。

⑨ いつも遅れて記録会に登場の元会員・山岸秀章氏(長野県駒ヶ根市在住)は、なかなかの教養人の様でやや古いが詩集の出版に関係して名前が出ている。又、最近の庭造りコンペで入賞しているのは、本人だと思う。過去にも仕事上の学会レポートで幾つか名前が出ているが、そろそろ関東に帰ってくれば、又、飛行機をやるのかな・・・。

⑩ このごろサッパリ姿を見せない櫛引会員は、昔は「エコラン」(50ccのエンジンでリッター何キロ走れるか等々)に凝っていたが、最近はソーラーカーレースに出ている。自動車名「酒呑童子」、しかし相変わらず素直じゃなく「しゅてんのわらべ」と読ませるらしい。個人で参加するのはお金もかかるし、これからでもUHLGなら投げられるので、そろそろ諦めたらどうか・・・。

⑪ 今旬の春山さんは、UHLGの機体を見ると納得するがラジコンヨットの専門家。その方でも優秀な成績を上げているらしい。自作の機体には、その辺のノウハウが詰め込まれている。

⑫ 下田会員は地元のラジコングライダークラブでも活躍中。RCハンドランチのサルでは多分第1人者なのでは。しかし、大宮田んぼにも来てよね。

⑬ 津守会員は昭和記念公園でのRC・HLG競技会仕切ったりして頑張っている。

⑭ 三田会員は2、3の雑誌に「飛行少年・・・」等の投稿しているようで名前が出てくる。将来、機関誌「ランチャーズ」の編集員にどうかな。

